

## 授業後 次回に生きる指導記録の作成

Eさんが、なかなか集中して学習に取り組めないのを、担任のF教諭は気にかけていた。

ある日の理科の時間、ひまわりの茎をじっと見つめているEさんに気付いたF教諭は、「どうしたの?」と声をかけた。

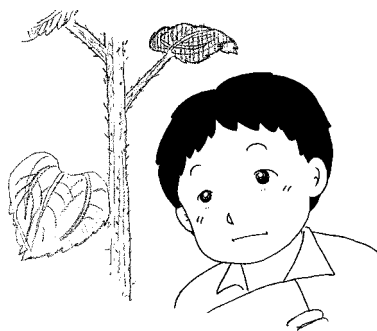
Eさんは、「細かい毛がいっぱい生えているよ。」と、小さい声で話した。F教諭は、「大発見! カードに書いて、みんなにも教えてあげよう。」と促した。Eさんは、簡単な絵と「毛がいっぱい生えている。」という一文を書いた。F教諭は、そのカードをクラスのみんなに紹介した。Eさんは、ちょっと得意気だった。

次の観察の機会に、F教諭は、Eさんに「この前みたいな発見を期待しているよ。」と声をかけた。Eさんは、いつになく張り切って授業に参加し、前回よりも丁寧に観察記録を書いた。

F教諭は、職員室でこの話を図工専科のG教諭に話した。G教諭はEさんが書いた観察カードを見て、丁寧な作業ぶりに驚いた。

次の写生の時間。G教諭は、「Eさんの観察カード見たよ。すごい観察力をもっているんだね。この木も幹の色をよーく見てごらん。気付くことない?」と声をかけた。

Eさんは場所によって色が違うことや、枝には凹凸があることを見つけ、いつもより丁寧に作品を仕上げることができた。



「子供一人一人をよく見て…」ということを中心に心がけてはいても、どうしても目立つ子に目が行きがちだったり、困った行動に目が行きがちだったりします。子供の様子を具体的に記録にしていくことは、全員に目を配っていく上で大切です。

### 配慮を要する子の活動を記録する

子供は誰も、みんなから認められたい、ほめられたいと思っていますが、タイミングよくほめるということはなかなか難しいものです。

しかし、カードや作品など具体的な活動の様子を記録し、蓄積していくと、その子供の得意なことや相手に対する反応の仕方などが分かってきます。そうすれば、その子供の好まない対応の仕方を控え、得意なことを発揮できる場面を意図的に設定することが可能になります。子供のプラスの面が際立ち、ほめられる場面が増え、周囲からの評価もよい方向に大きく変わってくることが期待できます。

また、記録をきちんと残すことは、指導者にとって自分の授業や子供への対応を振り返る上で、貴重な資料となります。

### 他の教師と情報交換し、次の授業に役立つ内容を書き留めておく

同じ子供でも、教科や教師によって態度や見せる顔が違うことはよくあることです。子供の状態をよく把握し、適切な指導や支援をしていくことが求められます。

教師同士の情報交換を日常的に行い、子供の最近の状況をよくつかむとともに、その子供にとって効果的な支援の方法をみんなで探っていくことが重要です。情報交換の中から、次の授業や指導で役立てられそうなことは、積極的に取り入れていくとよいと思います。